

土  
修身政訓孝範述  
四刻  
卷二

K110.1  
1036  
2

修身訓範卷二

行狀

第一章

東京 土岐政孝 述

夫人家ニ在リテハ、則親ニ事フルニ孝ヲ致シ、出  
デ、仕フルトキハ、則君ニ事フルニ忠ヲ盡ス、其  
他一事一業ヲ成スモ、身體强健ナラザルトキハ、  
精神振ハズ、耐任ノ力ニ乏シクシテ、自氣ヲ鼓シ  
志ヲ勵サントスルモ、遂ニ其意ノ如クナルコト

能ハズ、是ヲ以テ、行狀ハ平生ニ於テ慎マズバアルベカラズ故ニ攝養ヲ以テ行狀ノ第一義トス

第二章

身體ハ精神ノ托スル所ナレバ務メテ之ヲ保全セズバアルベカラズ保全ノ道ハ攝養ニ在リ攝養ノ法ハ、日ヲ限リ月ヲ界スベカラズ平常旦夕ニ自愛シテ之ヲ全クスベシ、飲食時ヲ以テシ飽饒多食スベカラズ、滋味膏粱ナラザレバ、以テ身體ヲ健強ニシ、才思ヲ發達スルコト能ハズトテ豐饌盛味ヲ貪ル者ハ之ヲ飲食ノ人トイフ、其言

一理ナキニアラズト雖大抵之ヲ以テ奢侈ノ口實トスル者ナリ、英雄豪傑ノ菜根ヲ喫シテ大業ヲ成シ、耆古來枚擧ニ遑アラズ、滋膏ニ飽キテ一事ヲ成ササル者亦何ゾ限アラン、若身體ノ強壯ヲ願ヒ、精神ノ快爽ヲ求メバ、運動勞作ニ如ク者ナシ、何ゾ必スシモ魚ト肉トニ頼ラン、

第三章

酒ハ吉凶ノ禮ヲ助クル物ナレバ、嚴ニ飲ムヲ禁ズルニハアラザレドモ、少小ノ時ハ、飲マザルヲ善シトス、然レドモ、其性之ヲ嗜マバ、慎ミテ亂ニ

至ルコトナカルベシ、若其量ヲ節スルコト能ハ  
ズバ、禁戒シテ飲ムベカラズ、醉後狂言醒時悔ユ  
トイヒテ、平生謹厚ナル人モ、往往酒ノ爲ニ誤ラ  
ル、者ナリ、一時ノ愉快ヲ求メテ無限ノ慚愧ヲ  
致スコト勿レ、

第四章

身體ハ常ニ清潔ニスベシ、肌膚塵垢ヲ含ムトキ  
ハ、氣血順環セズ、特ニ己ノ健康ヲ害スルノミナ  
ラズ、接スル者、皆其汚穢ヲ厭フベシ、毎朝盥漱シ  
テ、頭髮ヲ梳リ、全身ヲ拂拭シ、時時入浴シテ、垢膩

ヲ去ルベシ、此ノ如クスルトキハ、肌膚清潔ニシ  
テ、惡臭ヲ發セズ、心氣快爽ニシテ、血液汚敗ノ憂  
ナシ、

第五章

冠帽衣服ハ、必、整齊ニスベシ、貴紳ニハ貴紳ノ服  
アリ、卑賤ニハ卑賤ノ服アリ、高ニハ高ノ服アリ、  
農ニハ農ノ服アリ、皆其分ニ應ジテ整フベシ、好  
ミテ詭異ノ装ヲナシ、華麗ノ體ヲナスハ、俳優ノ  
流ナリ、衣服ハ粗ナリト雖、垢穢セザルヲ要ス、服  
ノ粗ナルハ、人之ヲ嫌ハズ、垢穢ナルトキハ、人甚

之ヲ厭ヒ、吾モ亦體ニ不可ナリ、寧、浣濯ノ爲ニ損  
ズトモ、垢膩ニ染マシムルコト勿レ、

第六章

居處ハ必、潔淨ニスベシ、毎日室ノ内外ヲ洒掃シ  
テ、塵埃ヲ蒙ラシメズ、衣服器皿ノ類、各其處ニ收  
ムベシ、室美ニ齋佳ナリト雖、塵埃四隅ニ掩ヒ、衾  
枕衣袴ノ類、席上ニ亂雜シ、牀頭ニハ書籍堆ヲナ  
シ、案頭ニハ筆研橫陳スルガ如キハ、其人ノ平生  
粗懶ナルヲ見ルニ足レリ、須、常時之ヲシテ整然  
タラシムベシ、

第七章

人ハ又適意ノ遊戯ヲシテ、樂ヲ求ムベシ、人各好  
ム所アリ、遊戯モ亦之ニ隨ヒテ同ジカラズト雖、  
要スルニ、心身ニ補益アル娛樂ヲスルニ如カズ、  
都ベテ遊戯ハ、心身ヲ活潑ニシ、勉強力ヲ提起ス  
ルニ止ル者ナレバ、興ニ隨ヒ流連シテ、反ルヲ忘  
ルベカラズ、善ヲスルハ、重キヲ負ヒテ、山ニ登ル  
ガ如ク、志已ニ確ナリト雖、力猶及バザランコト  
ヲ恐レ、惡ヲスルハ、駿ニ乘ジテ、坂ヲ走ルガ如ク、  
鞭策ヲ加ヘズト雖、亦制スルコト能ハズトイヘ

以常ニ此語ヲ體シテ遊戯セバ、樂未酣ニ至ラズ  
シテ頓ニ勉強ノ念ヲ發スベシ、

第八章

睡眠ハ時ヲ以テスベシ、白日業ヲ取り、夜間安眠  
ス、眠ハ以テ勞ヲ慰スル所ナリ、故ニ晨ハ早ク起  
キテ業ヲ取り、夜ハ深更ニ至ラヌ前ニ、褥ニ就ク  
ベシ、眠覺時ナラザルハ、業ノ成ラザル所以ナリ、  
世ニ勉強ヲ唱フル人アリ、動モスレバ、通宵徹夜  
シテ倦マザルニ誇ル、是數タハ能クスベシト雖  
周歲眠ラザレトイハゞ、誰カ之ニ堪フル者アラ

ン、徹夜机案ニ對ストモ、明日ハ恍然トシテ失フ  
コトアルガ如ク、日中午睡ヲナシテ、夜來ノ債ヲ  
償フニ至ル、是害アリテ功ナキナリ、晨ニ早ク起  
キテ、晝寢セズ、夜ニ至リテ安眠シ、以テ永ク英氣  
ヲ養フニ如カズ、

第九章

口舌ヲ以テ諭ス者ハ、人肯ヘテ從ハズ、躬行ヲ以  
テ率キル者ハ、人效ヒテ之ニ從ス、人ニ對シテ進  
退舉止ノ齊整ヲ説クトモ、己ガ動作疎暴ナルト  
キハ、以テ人ヲ感化セシムベカラズ、行狀ハ實踐

ニ在リ、實踐セザルトキハ、日ニ千萬言修養ノ道ヲ談ズトモ、之ヲ品行方正ノ人トイフベカラザルナリ、

### 立志

#### 第一章

志トハ心ノ指シ向フ所ニシテ、吾ハ甲ノ事ヲ果サン、吾ハ乙ノ業ヲ遂ゲン、吾ハ丙ノ道ヲ修メン、吾ハ丁ノ理ヲ究メント、人人各異ノ望願ヲ興シテ、之ヲ成就セント欲スルヲイフ、日常心思ノ中ニ於テ、志ヲ立ツルバ、カク貴重ナルハナシ、世ニ

學識淵通ニシテ、見聞該博ナリト雖<sup>モ</sup>生涯一ノ事蹟勲業ナクシテ死スル者少カラズ、是畢竟一定ノ志向ナキニ由レリ、學者ハイフニ及バズ、一般ノ人、苟<sup>モ</sup>爲ルコト有ラント欲スル者ハ、志ヲ立ツルヲ以テ第一トス、故ニ今特ニ心術中ニ就キテ、立志ノ一篇ヲ別敘ス、

#### 第二章

志ハ自立ツベシ、人ノ強フルヲ俟ツベカラズ、吾ガ心ニ感興スル所アリテ、之ヲ爲ルニアラザレバ、其業終ニ成ラズ、人ノ嗜好ハ、各異ナリ、故ニ其

入ル所モ、亦同ジカラズ、是天下國家ノ存立スル所以ナリ、若一國ノ人皆工ナラバ、以テ米穀ヲ生ズベキ者ナク、一國ノ人皆農ナラバ、以テ器什ヲ供スベキ術ナカルベシ、東隣ニ農ヲ好ム者アリ、西隣ニ工ヲ好ム者アリ、百家ノ人相須チ相利シテ、始メテ其生ヲ全クスルコトヲ得ベシ、故ニ人ハ各異ノ嗜好アリテ、他ニ求ムルコトナキヲ貴シトス、

### 第三章

人ハ畢生ノ中ニ、必一事ヲ作爲スベシ、人ノ此世

ニ存スル、必爲ル所ナクシテ可ナランヤ、故ニ少壯ニシテ各其志ヲ興シ、奮勵シテ從事スベシ、殊ニ事業ノ大ナル者ハ、必一生ニシテ成ルト定ムベカラズ、或ハ其子之ヲ受ケ、或ハ他人之ヲ紹ギ、遂ニ一大事業ヲ成スニ至ル、是其身功ヲ竣ラズト雖、亦其道ニ先鞭ヲ著スルノ人ナリ、其人逝クト雖、其名終ニ没セズ、斯クアリテコソ、真ニ人ノ人タル甲斐アリトハイフベケレ、肥馬ニ乘リ、輕裘ヲ衣テ、閭里ノ小兒ニ誇ルトモ、一ノ成スコトナクテ、醉生夢死シ、生キテ世ニ益ナク死シテ人



ノ稱スルコトナクバ、何ゾ貧賤ニシテ窮廬ニ老死スル者ニ異ナラン、古ヨリ巨族豪家ノ死スル者幾何ナルヲ知ラズ、然レドモ世ニ在リテ一ノ事業ナキ者ハ、恰此世ニ出デザル者ト一般ナリ、賤ムベシ、

第四章

少壯ナル時ハ、大事ヲ成就セントスルモ、前程遙ナリト、世ヲ悠久ニ思ヒテ、目前ノ事ニノミ從ヒ、月ヲ玩シ日ヲ愒シテ、終ニ老域ニ臨ミ、身老イ氣衰ヘテ、諸事壯年ノ時ノ志ノ十分ノ一モ達セザ

ル者多シ、故ニ一事ヲ興シ、一業ヲ成サント欲セバ、須、専心ニ勇進スベシ、心ヲ用キルコト專ナル者ハ、雷霆モ其響ヲ聞カズ、寒暑モ其勞ヲ知ラズトイヘリ、是、一念ノ專旺スルニヨリテ、耳ニ觸レ體ニ感ズルコトモ、絶エテ其神心ニ通ゼザルナリ、是ノ如クニシテ、後始メテ雜事ノ爲ニ、其素志ヲ移動セララル、コトナカルベシ、

第五章

志業ハ、單一ナランコトヲ要ス、人ノ好ム所、其勢兩立セズ、此重キトキハ、則、彼輕シ、專一ナラザル

トキハ直遂スルコト能ハズ故ニ醫學ヲ修メン  
ト思ハバ、法學ヲ修ムルコト勿レ、法學ヲ攻メン  
ト欲セバ、醫學ヲ勤ムルコト勿レ、醫者ニモナリ、  
法家ニモナラントスレバ、其力兩分シテ、醫術モ  
精博ナラズ、法理モ貫徹セズ、醫者ニナリテモ、良  
醫ト稱セラレズ、法家ニナリテモ、明法ト稱セラ  
ル、ニ至ラヌナリ、寧其一方ヲ棄テ、カヲ一方  
ニ專ニスルニ如カズ、

第六章

志業ハ規模ヲ遠大ニセンコトヲ要ス、農トナラ

バ、豪農トナランコトヲ願ヒ、工トナラバ、良匠ト  
ナランコトヲ願ヒ、商賈トナラバ、巨商大賈トナ  
ランコトヲ願フベシ、凡百工技藝皆其志ヲ大ニ  
セスシテハ、大成スルコト能ハズ、故ニ第一等ヲ  
以テ別人ニ譲リ、己先第二等トナランナドイフ  
者ハ、第二等スラ、終ニ及ブコト能ハザル者ナリ、  
決シテ第一等ヲ人ニ譲ランノ卑心ヲ抱クベカ  
ラズ、志小ナルトキハ、足り易シ、足り易キトキハ、  
由リテ進ムコトナシトイヘリ、

第七章

道ハ近シト雖行カズシテハ至ラズ事ハ小ナリト雖爲ズシテハ成ラズ志立ツトキハ成シ難カラント思フ程ノ大業モ遂ニ成就シ志立タズシテハ容易ナル小事モ決シテ成就スルコト能ハズ均シク是人ナリ彼ニハ爲シ得易クシテ我ニハ爲シ得ガタカルベキ理ナシ自企テ及ブマジトテ沮喪スルコト勿レ凡天下ノ人志アルトキハ事必成ル事ノ成ラザルハ志ノ立タザルナリ

第八章

成功ハ永久ヲ期スベシ往往其素志ニ乖キテ意

ノ如クナラズ或ハ幾成ラントシテ敗ル者アリ柔腸ノ人ハ此際ニ臨ミテ其志頓ニ挫屈シ遂ニ其望ヲ貫クコト能ハズ日常至微ノ事ト雖齟齬シヤスキナラヒナレバ大業ノ容易ナラザルハ固ヨリナリ屢屈シ屢乖キ而シテ後ニ始メテ堅忍不拔ノ偉功ヲ收ムベシ故ニ苟事業ヲ成就セント欲セバ忍耐ノ氣象ナクバアルベカラズ一時ノ窮達ヲ以テ其志操ヲ改ムルコト勿レ

第九章

人世常ナラズシテ百患交來ルハ是造化主ノ人

材ヲ養成スル手段ナリ少年ハ銳氣鬱勃トシテ  
頗喜ブベキ者アリ然レドモ多少ノ艱難ヲ經歷  
スルニ隨ヒテ英氣漸銷耗シ終ニ一個ノ俗物ト  
ナル者多シ是其人ノ不幸薄命ナルニアラスシ  
テ全ク造化主ノ屬望ニ耐ヘザルヲ以テ終ニ成  
立スルコト能ハザルナリ貧賤憂戚以テ汝ヲ玉  
成ストイヘリ豈天ヲ怨ミ人ヲ尤ムベケンヤ造  
化特意ノ恩惠ヲ以テ其人ニ忍耐不撓ノ性質ヲ  
增益セシメ以テ大器ヲ鑄成セント欲スルナリ

第十章

志業ノ速達ヲ期スルトキハ氣力竭クル者ナリ  
一時ニ氣力ヲ盡ストキハ心ニ倦怠ヲ生ジ易シ  
只其宿志ヲ抛擲セズ漸歩ヲ進ム以テ其必成ヲ  
求ムベシ一寸ノ魚ヲ得シニハ一尺ノ網ヲ結ビ  
テ可ナルベケレドモ一尺ノ魚ヲ得ント欲セバ  
一丈ノ網ヲ結バズシテハ叶ハヌ者ナリ一尺ノ  
網ヲ結ブハ一丈ノ網ヲ結ブヨリモ早シ然レド  
モ終ニ大鱗ヲ獲ルコト能ハズ故ニ大網ヲ下サ  
ズシテハ大魚ヲ得ズトイヘリ豈特ニ漁網ノミ  
ノ謂ナランヤ人ノ志業モ亦是ノ如シ若非常ノ

人品トナラント欲セバ、亦非常ノ勉勵勞苦ヲ積マズバアルベカラズ、非常ノ勉勵勞苦ヲ積ムハ、其志氣ヲ屈撓セズ、成功ヲ永遠ニ期スルニ在リ、

第十一章

人ハ自信ズル念ヲ篤クスベシ、自信ズトハ、己ガ學ブ所ノ道、爲ル所ノ業ヲ、篤ク信ジテ固ク守ルヲイフ、世人或ハ之ヲ不可トシテ、勸ムルニ他ノ利ヲ以テストモ、決シテ之ガ爲ニ、其素志ヲ變ズベカラズ、若輕シク人ノ勸ニヨリテ、己ガ志向ヲ變ジ、昨日ハ文學ヲ修メント欲シ、今日ハ工業ヲ

修メント欲シ、昨年ハ開拓ヲ務メント思ヒ、今年ハ航海ヲ試メント思フガ如クナラバ、豈之ヲ志業ト稱センヤ、其内ヲ一ニセズシテハ、其外ヲ制スルコトナシトイヘリ、必<sub>ズ</sub>自信ズルコト篤クシテ、中心一途ニ傾ムカバ、外議來ルト雖斷然之ヲ制排シ、以テ己ガ志操ヲ全クスベシ、

第十二章

志ヲ立ツルコト壯ナルトキハ、氣質モ之ガ爲ニ變化スルニ至ル、人遊情ナルトキハ弱ナレドモ、一旦困苦スルトキハ強トナリ、愜意ナルトキハ

柔ナレドモ、一旦激發スルトキハ剛トナル、是困  
苦シテ志ヲ奮ヒ、激發シテ志ヲ起スガ故ニ、其氣  
質ヲ變化スルナリ、均シク是一人ニシテ忽弱ト  
ナリ、忽強トナリ、忽柔トナリ、忽剛トナル、只其志  
ノ立ツト立タザルトニヨリテ變化ス、總ベテ世  
ノ人ヲ見ルニ、何ノ目的モナキ人ハカリ、憐ムベ  
キ者ハナシ、假令少シク才氣アリ、徳量アリトモ、  
我ハ此事ヲセント思フ起スコトナキトキハ終  
身脚步ヲ進ムルコトナク、壯年ノ時モ、老年ノ時  
モ、些ノ變化ヲ見ザル者ナリ、童ニ老壯相同ジキ

ノミナラズ、年年歳歳衰ヘ行クバカリニテ、終ニ  
悔イ斃ル、者ナリ、

第十三章

熟古今ノ大業ヲ成就シタル傑人卓士ヲ察スル  
ニ、皆是、非常ニ辛苦勉強シテ、切磋琢磨ノ功ヲ積  
ミ、一事一業ヲ成就セシナリ、俗人動モスレバ、古  
人ノ俊秀ナル者ヲ稱シテ、彼ハ少年ノ頃ヨリ非  
凡ナリ、大業ヲ成ス者ハ生ツキナリナド、稱讚シ  
之ヲ書ニ筆シ、之ヲ史ニ傳ヘテ、天授ノ偉才、常人  
ノ得テ企テ及ブ所ニアラズト、譽メソヤスノミ

ニシテ其人ハ如何ナル勉強ヲセシカ、如何ナル  
困苦ニ堪ヘシカラ察スル者太少シ、知ラズ其人  
ノ大業ヲ成就セシ所以ノ者ハ、皆各尋常忍ブコ  
ト能ハザル所ヲ忍ビ、尋常耐フルコト能ハザル  
所ニ耐ヘテ、終ニ事功ヲ末年ニ奏セシナリ、假令  
之ヲ天授ト稱ストモ、其天ヨリ授カリタル所以  
ノ者ハ、皆己ガ力ヲ盡シテ、以テ天ヨリ受ケタル  
者ナリ、豈飽食暖衣逸居シテ自然ニ功名ノ降リ  
來ル者ナランヤ、必能ク人ノ思フコト能ハザル  
所ヲ思ヒテ方ニ能ク人ノ爲ルコト能ハザル所

ヲスト、古人イヘリ

第十四章

人ハ己ガ力ニ頼リテ、天命ヲ得ベシ、天命ヲ説キ  
テ、安逸ヲ偷ムコト勿レ、火ヲ乞フハ、燧ヲ取ルニ  
若カズ、汲ヲ寄スルハ、井ヲ鑿ツニ若カズ、凡事自  
之ヲスベシ、人ニ求ムベカラズ、況ヤ徒食坐觀シ  
テ、天福ノ來ルヲ待ツベケンヤ、懶人ハ、己ヲ責メ  
ズシテ、天ヲ恨ミ人ヲ羨ミ、自嘆ジテ、吾ハ薄命ナ  
リ、我ハ不幸ナリ、吾ハ未好機會ヲ得ズトイフ、所  
謂機會ハ、造化不測ノ命ニシテ、固ヨリ得テ窺フ

ベカラズ、唯己ガカヲ頼ムノ誠確ナルニ如カズ、且志ナキ者ハ、機會到ルト雖常ニ之ヲ失フ者ナリ、時ニ乘ズルハ矢ノ如ク、時ヲ待ツハ死スルガ如シ、所謂死スルガ如シトハ、徒食坐觀ヲイフニアラズ、己ノスベキ事ヲシ、勉ムベキ事ヲ勉メテ、而シテ、時ノ來ルヲ俟ツナリ、懶人動モスレバ、尤ヲ天命ニ歸ス、是天命ニ厚薄アルニアラズシテ、人カニ勉強アルナリ、徒ニ人ノ裕隆顯達ヲ羨ミテ、其身成ス事ナクバ、何ノ日カ顯達ヲ得ベケンヤ、貴ヲ慕ヒ貧ヲ恥ヅレバ、志趣群ニ落ツトイヘ

以

第十五章

語ニ云ク、人ハ百歳ナルコト能ハズ、只當ニ志不朽ニ在ルベシ、志不朽ニ在ルトキハ、業朽チズ、業不朽ニ在ルトキハ、名朽チズ、世世子孫モ亦朽チズトイヘリ、言フコ、ロハ、人ノ命ハ、百年ヲ保ツ者稀ナレバ、決シテ千歳ノ後マデ存スベキ道ナシ、但其命數ニハ限アレドモ、其志業ハ不朽ニ傳ハル者ナリ、何ノ業ニモアレ、一生ノ中ニ志ヲ立テ、成シ置キタル事ハ、其大小ニ隨ヒテ、或ハ三



百年五百年ノ後ニ傳ハリ或ハ千年二千年ノ後ニ傳ハリテ何ノ事ハ某氏ノ遺法ナリ何ノ業ハ某氏ノ創造ナリト其永ク傳ハルコト生命ノ百歳ヲ限ルガ如クナラズ既ニ其志業永遠マデ傳ハラバ其名モ亦隨ヒテ朽チズ某氏ハ電機ヲ發明セシ人ナリ某氏ハ火輪ヲ發明セシ人ナリ某先生ノ子ナリ某大人ノ孫ナリ某學士ノ裔ハ今某處ニ在リ某哲人ノ門ハ今某官ニ居リト子子孫孫ニ至ルマデ父祖ノ光庇ニ浴スルコト少カラズ嗚呼其人トシテ志業ナカルベク

ンヤ、

第十六章

無益ナル事ニ物ヲ糜スルヲ天物ヲ暴殄ストイフ醉生夢死シテ世ニ小補ナキ人衣食住ノ爲ニ天地間ノ諸物ヲ費スハ亦是天物ヲ暴殄スルニアラズヤ實ニ有用ノ物ヲ以テ無用ノ者ヲ養フトイフベシ人トシテ無用ノ名ヲ蒙ルハ豈深ク恥ヂザランヤ天地萬古アレドモ此身ハ再得ズ人生只百年此日最過ギ易シ人人少壯ニ於テ志ヲ立テ堅ク之ヲ持シテ遂ニ之ヲ果サンコトヲ

願フベシ

學問

第一章

學問トハ人ニ問ヒ書ニ徵シ事物ニ就キテ實驗  
シ而シテ之ヲ己ニ反覆思繹スルヲイフ學ハ思  
ニ原ヅクトイヒ又大ニ疑ヘバ則大ニ進ムトイ  
ヒ云心ヲ潛ムルコト深カラザルトキハ疑モ亦  
生ズルコト能ハズ參互考求シテ疑ヲ生ジ疑義  
ヲ摘發シテ問難ヲ起スナリ疑アレバ則問ヒ云  
其煩ヲ憚ルコト勿レ己心服セズバ再三推問ス

ベシ人ニ質シテ一言ノ解ヲ得レバ便渙然トシ  
テ冰釋スルガ如ク殊更ニ敏捷ナル態ヲ見スル  
者ハ其見聞終ニ進ム時ナシ疑ヲ起スコト彌深  
久心ニ解スルコト彌明ナルトキハ其術彌進ム  
故ニ曰久問ヲ好メバ則裕ナリト

第二章

學問ノ道ヲ約言スレバ講究ト實驗トノ二ナリ  
講究スルニアラザレバ其理ヲ博ムルコト能ハ  
ズ實驗スルニアラザレバ其功ヲ見ルコト能ハ  
ズ而シテ講究ヲ先ニシ實驗ヲ後ニス講究ハ每

日ノ修業ナリ、實驗ハ終身ノ事業ナリ、人世ハ一  
大學場ナリ、經世ハ一大學問ナリ、サテ其講究ノ  
道ハ種種アリト雖、初小學ニ入り、後ニ大學ニ入  
ル、學ノ大小、固ヨリ同ジカラズト雖、其道ハ則チ一  
ナリ、其幼ナル時ニ當リテハ、之ヲ小學ニ習ハズ  
シテハ、以テ大學ノ基本ヲ立ツルコト能ハズ、其  
長ズルニ及ビテハ、之ヲ大學ニ進メズシテハ、以  
テ小學ノ成功ヲ收ムルコトナシ、假令公學官校  
ニ就カズ、家塾私學ニ益ヲ請フ者ト雖、小ヨリ大  
ニ及ボシ、粗ヨリ精ニ入り、事物ノ蘊奧ヲ極ムル

ニ外ナラザルナリ

### 第三章

學業ハ須、嚴ニ課程ヲ立テ、一日モ放慢スベカ  
ラズ、學ハ漸ヲ以テ日ニ進ムヲ貴ブ、天下ノ極遠  
ナル、人跡ノ及バザル處モ、日ニ黽勉シテ己マザ  
ルトキハ、則チ至ルベカラザル所ナシ、學ノ源流遠  
シト雖、苟モ下學ノ功日ニ進ミテ息マズ、之ヲ久シ  
クセバ、則チ以テ上達スベシ、故ニ學ハ日新ヲ貴ブ、  
日新ハ日進ナリ、日ニ進マザル者ハ、必日ニ退ク、  
未進マズシテ、退カザル者ハ、アラズ、學ヲナスハ、

恰上水船ニ撐サスガ如ク一篙モ放緩スベカラズ、學者自強メテ息マザルトキハ、則少ヲ積ミテ多ヲ成シ、中道ニシテ止マルトキハ、則前功俱ニ棄タルトイヘリ、學問ノ道ハ、毎日少シヅ、ニテモ、絶エズ進ムヲ善シトス、一旦ニ上達セズト雖、遂ニ其妙處ニ達スベシ、若進修ノ道ヲ怠ルトキハ、所謂覺エタルダケハ損ニナラズトイヘド、其覺エタル事モ、イツカ打忘レテ、次第ニ退歩スル者ナリ、

第四章

常人輒モスレバ、吾ハ讀書學問セント思ヘドモ、毎日ノ職業ニサ、ヘラレテ餘暇ヲ得ズ、故ニ本意ナラザレドモ、修業セズトイフ者アリ、是學ヲ好マザル者ノ口吻ナリ、此ノ如キ人ハ、假令日月ヲ閑ニ銷シ、十分ニ學藝ヲ修メラル、時アリトモ、多クハ優遊ニ過ス者ナリ、人學問セントナラバ、毎日少シヅ、ニテモ勤ムベシ、之ヲ一生ニ積ムトキハ、果シテ人ヲ驚カス程ノ事業ヲ成シ得ベシ、童ニ一生ノ長キヲ待タズ、十年ノ後ニハ、必著ルキ成驗ヲ見ルベシ、故ニ農ニテモ、工ニテモ、

高ニテモ、吏ニテモ、貧人ニテモ、老人ニテモ、日ニ營生ノ餘暇ヲ以テ學問ヲ勸ムベシ、豈學校ノ生徒ト、富家ノ兒童ト、青年妙齡ノ人トノミニ限ラシヤ、況ヤ家富ニ産裕ニシテ世務ヲ父祖ニ托シ十分ノカヌ學藝ニ盡スコトヌ得ラル、人ニ於テヲヤ

第五章

思ヲ潛ムルコト精到ナルトキハ事物ノ理必明ナリ、世ニ理外ノ事ナク人ニ窮ムベカラザル理ナシ、只之ヲ窮メザルガ故ニ、其理明ナラズ、或ハ

天地間ニ理外ニ出ヅル事ナキニシモアラズ、一概ニ理ヲ以テ推シ測リ難シトイフ人モアレド、是ハ其事ノ理外ニ出ヅルニアラズシテ、惟人ノ理ヲ窮ムルコト未精到ナラザルニ因ルナリ、今日以テ理外ノ理ト稱スル者異日必理中ノ理ナルコト疑フベカラズ、故ニ思ヲ潛ムルハ極メテ精到ナランコトヲ要ス

第六章

百工ノ道各妙處アリ而シテ皆邦家ヲ利濟スル所以ナリ、故ニ相俱ニ尊重シテ其道ヲ治ムル者

ヲ敬スベシ天下ノ事千條萬緒豈一人ヲ以テ悉其業ヲ盡スコトヲ得ンヤ天ノ人ヲ生ズル必其質ヲ異ニシテ長短巧拙相同ジカラズ各其長處能處ヲ修メテ相須チ相濟ヒ億萬ノ生靈始メテ其生ヲ安ズルコトヲ得ベシ若然ラズシテ全國ノ人皆其業ヲ同ジクセバ其國以テ存スベカラズ餓エテ食ナク寒エテ衣ナク法律文章モ其用ヲナシ難ク故ニ農モ國ノ寶ナリ工モ國ノ寶ナリ農ヲ治ムル人モ學者ナリ工ヲ研ク人モ學者ナリ而シテ政事法律詩賦文章ヲ攻ムル人モ亦

學者ナリ豈彼ヲ崇ミ是ヲ卑ミ彼ヲ輕ジ是ヲ重ゼンヤ苟一ノ學藝ニ從事スル者ハ互ニ相推獎シテ各國家ニ功用アラシムコトヲ勸ムベシ決シテ吾ヲ揚グ他ヲ抑スベカラズ

第七章

學問ノ道ハ廣ク且大ナリ前人畢生ノ工夫ヲ費シテ爲シ、事ヲ後進ノ輩承ケ紹ギテ更ニ又之ヲ闡明シ前人未發ノ道ヲ發揮スベシ故ニ先輩ハ我が師ナリ而シテ我又心ヲ潛ムルコト深キトキハ先輩ノ上ニ出ヅルハ當然ナリ何トナラ

バ前輩五十星霜ヲ一途ニ費シテ一事ヲ發明ス  
其功已ニ勤メタリ後進更ニ前輩勞力ノ餘ヲ承  
ケテ又五十星霜ヲ費サバ前輩未發ノ理ヲ發明  
スルハ當然ノ事ナリ前輩ハ後進ヨリ愚ナルニ  
アラズ後進ハ前輩ヨリ賢ナルニアラズ其出ツ  
ルニ前後アルガ爲ニ後進ノ前輩ニ勝レルナリ  
若前輩ト同一ノ學業ニ同一ノ工夫ヲ費シテ終  
ニ前輩ニ劣リタル者トナラバ是其道ノ愚人ト  
イフベシ

第八章

讀書家ニ師弟遺傳ノ說ヲ守リテ互ニ辯駁論議  
スト雖飽クマデ師說ヲ奉戴スルコト教徒ノ經  
典ヲ奉戴スルガ如キ者アリ是固陋ノ見ヲ免レ  
ズ其師果シテ公明平直ナル人ナラバ其門人ノ  
自家ノ說ヲ墨守スルヲ好マザルハ必セリ且門  
人輩動モスレバ是ハ師ノ定說ナリト主張ス知  
ラズ其師タル者猶假スニ數十年ヲ以テセバ或  
ハ其說變ジテ他ノ駁說ヲ述ベンモ未知ルベカ  
ラズ然ラバ則其末門タル者豈之ヲ師ノ定說ナ  
リトテ固執スルヲ得ンヤ故ニ學問ニ流派ヲ唱

フルハ抑末ナリ豈天下廣大ノ學ニ流派ヲ分タ  
シ須甲ヲモ取リ乙ヲモ取リ丙ヲモ亦參酌スベ  
キナリ故ニ學者輕シク先輩ノ說ヲ議スルハ僭  
妄ナリト雖、妄ニ古人ヲ信ジ徒ニ舊式ニ泥ミテ  
自得發明スルコト能ハザルモ亦學者ノ通弊ナ  
リ古人曰久吾輩學問ノ進マザル所以ノ者ハ何  
ゾヤ蓋舊習ニ安ジテ故歩ヲ變ズルコト能ハザ  
ルニ由ルト

第九章

學問ハ博ト約トニ在リ博トハ博涉ノ謂ニシテ

博覽該通ナルヲ貴ズ然レドモ徒ニ博クシテ綿  
密ナラザルトキハ雜駁ニシテ用ヲナシ難シ約  
トハ約守ノ謂ニシテ周密精細ナルヲ重ズ然レ  
ドモ徒ニ約ニシテ廣博ナラザルトキハ固陋ニ  
シテ用ヲナシ難シ是ニナガラ自得ノ道ニアラ  
ズ彼ノ草萊ヲ闢キ土地ヲ墾スル者ヲ見ズヤ十  
畝ノ田一段ノ畦ヲ耕ヘスニ當リ滿田遍畦ニ耒  
耜ヲ下ストキハ只無益ニ勞ヲ費スノミニシテ  
其實功ヲ得ズ須先那一邊ヨリ徐徐ニ耒耜ヲ  
施シ大塊ハ之ヲ碎キ小石ハ之ヲ去リ草蔓ヲ除



キ竹根ヲ掘リ、漸ニシテ十畝一段ヲ耩シ盡スヲ得ベシ、學問ノ道モ亦此ノ如シ、須脚歩ヲ定メテ一方ヨリカノ限リ博涉スルヲ要スベシ

第十章

卷ヲ開ケバ益有リトテ書籍サヘ看レバ必我ニ益アル者ト思ヘド、同ジク讀マンニハ成ルベク善書ヲ讀ムベシ、善書ヲ讀メバ志氣ヲ提醒シ、智見ヲ擴充シ、不善書ヲ讀メバ志氣ヲ柔輒ナラシメ、智見ヲ湮沒ス、好ミテ雜書ヲ觀レバ精力ヲ分タンコトヲ恐ルトイヘリ故ニ小説志怪猥談無

用ノ書ヲ涉獵シテ博學トスルハ非ナリ、各人専門トスル書籍ニ没頭シ、餘暇ニ看ル所モ亦實益多キ者ヲ玩ブニ如カズ、但小説雜書モ亦長夏半日ノ勞ヲ慰ムルニ可ナリト雖之ヲ讀ムニ當リテハ、身心ヲ警ムルヲ以テ主トシ、作者ノ趣工文脈ノ妙處ナドニ著眼シテ、無根ノ俗談ニ心醉セザルヤウニスベシ

第十一章

讀書ノ功ハ實ニ深シ、故ニ今讀書上心得ベキ古人ノ訓誡ヲ掲ゲテ、學者ノ注意センコトヲ望ム

凡書ヲ讀ムニハ、凡案ヲ潔淨シ、書冊ヲ整頓シ、身體ヲ正シクシテ、詳緩ニ看讀スベシ、書冊ハ須愛護センコトヲ要ス、繙攤ノ間、腦ヲ捲クコト勿レ、角ヲ折ルコト勿レ、爪ヲ以テ字ヲ侵スコト勿レ、唾ヲ以テ幅ヲ掲グルコト勿レ、枕トナシ、夾刺スルコト勿レ、隨ヒテ損ズレバ、隨ヒテ修メ、隨ヒテ開ケバ、隨ヒテ掩フベシ、點汚、縐摺スベカラズ、讀書中急速ノ事アリト雖、必卷ヲ掩ヒ、帙ヲ束子テ、後ニ起ツベシ、決シテ凡案ヲ狼藉シ、部帙ヲ分散シテ、蟲鼠ノ害ヲ被ラシムルコト勿レ、是亦學問

ノ一端ナリ

第十二章

光陰ハ極メテ愛惜スベシ、眼前ノ一刻ハ即百年中ノ一刻ニシテ、今年ノ今日ハ、一生中復得ベカラザル光陰ナリ、千百ノ金銀ハ、今日之ヲ失フト雖、明日之ヲ得ル道アリ、只復スベカラザル者ハ、光陰ナリ、歲月ノ既ニ往ク者ハ、復スベカラズ、未來ラザル者ハ、期スベカラズ、只今日ヲ失ハザラシコトヲ要スベシ、庸人ハ、往日ノ惜ムベキヲ知リテ、來日舊ニ依リ、因循ストイヘリ、今日空シク

銷ズルハ、一生中ノ二十四時間ヲ短クスル者ナ  
リ故ニ寸隙ハ愛スベク分陰ハ惜ムベシ人甚金  
錢品物ヲ浪費スルヲ愛惜スレドモ、一生ノ中復  
得ベカラザル光陰ヲ浪銷スルハ反リテ念トセ  
ザル者多シ是金錢器物ハ現ニ其損失ヲ知ラル  
レドモ、光陰ハ去リテ跡ナク、失ヒテ形ナキガ故  
ニ、カクハ容易ニ思フナリ一日ノ價萬金ヨリモ  
貴シ徒ニ日月ヲ銷ズル者ハ毎日萬金ヲ失フナ  
リ又不善ヲ行ヒテ日月ヲ銷ズル者ハ萬金ヲ失  
フ上ニ、萬金ノ債ヲ舉グルガ如シトイヘリ人豈

此ノ如ク貴重ナル駒隙ヲ放過シテ、學業ヲ怠ル  
ベケンヤ、

修身訓範卷二終

士  
修政身孝訓述範

四刻卷三

K110.1  
103b  
3